

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 いわき市立小川小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	いわき市立小川小学校 3学年 25名 4学年 22名 5学年 23名 6学年 28名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を通して、スポーツの意義や価値などへの理解・関心を高め、障がい者を含めた多くの人たちが、生涯を通じて主体的にスポーツに参画していることを知り、自らも進んでスポーツに親しむ態度を育成する。
5 取組内容	<p>&lt;総合的な学習の時間「パラリンピック調査隊」&gt; ○3・4年生による実践 3・4年生(47名)では、実技を通して障がい者スポーツ、さらにはパラリンピックについての学びを実践した。 その際、久保木洋輔先生(富岡支援学校教諭)をお招きして、前半は「障がい者スポーツについて」「ボッチャ競技について」の授業を通し、パラリンピックについての歴史や意義、その種目等について学ぶことができた。</p>  <p>後半は、「ボッチャ」の体験活動を行い、その競技性や得点を競う際の作戦等について学び、誰とでも交流できるよさや自らスポーツに親しむことの大切さを理解できた。</p> 

○5・6年生による実践

【パラリンピックメダリストを招聘しての授業】

5・6年生（51名）では、パラリンピック車いすバスケットボール銅メダリストの増子恵美先生をお招きして、パラリンピック競技としての車いすバスケットボールの紹介と実技、後半はご自身の体験談を中心に授業をしていただいた。



前半の車いすバスケットボールの実技では、いつもと勝手が違うボールの扱いに苦戦しながら、ゲームを中心に行い、増子先生の盛り上げもあって、進んで体験する姿が見られた。

後半の増子先生の体験談では、事故に遭って足が不自由になってしまったときの体験談を中心に、人と関わりを持つことで道が開き、障がい者だからといって、必ずしもみんなと違うわけではなく、健常者も障がい者も同じであることを理解することができた。



【発表会の実施（6年生）】

学習発表会において、総合的な学習の時間の実践発表を行った。今回の増子先生の話から得たこと、自分たちの調べ学習で積み上げてきたことを、プレゼンテーション形式で保護者に報告することができた。



6 主な成果

本校では、総合的な学習の時間に「パラリンピック調査隊」として、これまで障がい者スポーツや、パラリンピックの意義について学習を進めることができた。

- ① 3・4年生については、「ボッチャ体験教室」を通して、障がい者スポーツの存在や、ボッチャという競技の特性を実技を通して学ぶことができた。
- ② 5・6年生については、車いすバスケットボールのメダリストでもある「増子恵美先生」を講師に迎え、先生の生の声を聞いたり、車いすバスケットボールの体験活動で先生と触れあったりしたことで、障がい者スポーツやパラリンピックの意義、心のバリアフリーについても感じ取ることができた。
- ③ 子どもたちの声として、
  - ・増子先生から、逆にたくさんの応援の言葉をもらうことができた。
  - ・「車いすを使えばいつでもみんなとバスケットボールができる」という言葉が響いた。
  - ・ひたむきに努力することで、普通の人と障がい者との壁が

	<p>なくなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢に向かって諦めないことで、実現できることがわかった。</li> </ul> <p>など、障がい者スポーツを通して、障がい者も健常者もない共存・共生社会について理解を深めることができた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がい者としてみるのではなく、障がいのある人たちが、いかにその障がいと向き合っているのか、障がい者スポーツの体験や経験談などを中心に授業を行っていただいた。</li> <li>○ 5・6年生に対しては、広く障がい者スポーツを理解するために、ボッチャやシッティングバレー、ゴールボールなどの体験も実施した。</li> <li>○ 6年生では、学習発表会の際に、総合的な学習の時間「パラリンピック調査隊」の実践発表を行い、保護者より好評を得た。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナウィルスの影響で、肝心のオリンピック・パラリンピックが2021年に延期になったこともあり、今年度以降も継続的に授業に取り入れ、開催に向けて意識の高揚を図りたい。</li> <li>○ 今後は、障がい者の方々が身近にいるということを理解し、共存・共生の社会が当たり前なこととして捉えられるようにしたい。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度のみにとどまらず、次年度以降も継続的に授業に取り入れ、オリンピック・パラリンピック開催に向けて関心をさらに高めていきたい。</li> <li>○ 今回の学びを、子どもたちの実践する力につなぎ、地域社会に貢献できる児童の育成を目指したい。</li> </ul>